

2015. 7.22

小原院長の“いま一番気になる人・仕事”スペシャル対談

佐藤朱莉×小原忠士

平成2年の開院以来、25年間にわたり地元連島を中心に多くの住民の方から信頼を頂き、皆様の健康に貢献してきた小原整骨院。その小原院長が“いま一番気になる人・仕事”というテーマで、ゲストの方と対談をして頂きました。今回は、プロのミュージカル俳優を目指している佐藤朱莉さんに、夢を追いかけること、自分を磨き続けることについて語り合ってもらいました。(2015年7月14日(金) KIT マネジメントにて)

常に努力が必要な環境に身を置き、自分自身を磨き続ける…そこに入り込むのは、

大変だけれど、そういう部分が好きなんです！

ゲスト紹介

■ 佐藤朱莉 (山陽女子高等学校 普通科 Music コース ミュージカル専攻)



1997年9月1日生 真備町出身。幼少期から歌や踊りが好きで地元真備町のマービーミュージカルに3歳で入団、4歳で初舞台を踏む。その後毎年出演するようになる。平成25年には女優の神田沙也加さん主演の全国公演ミュージカル「赤毛のアン」のアンのクラスメート役として出演。北海道から福岡までの全国8都市を回った。現在は、山陽女子中学高等学校のミュージカル専攻に在籍しながら、ジャズダンス、クラシックバレエ、声楽、芝居など生活の大半を練習につぎ込み、劇団四季への入団を目指し努力している。

■ 佐藤敏江 (真備記念病院 看護師)



玉野市出身。夜勤など不規則な勤務形態である看護師をしながら、夢を追いかける娘を全面的にサポートしている。中学生の時に、親に内緒でプロダクションへ書類を送り審査に通ったが、勇気がなくオーディションへ行かず看護師の道へ進んだ過去を持つ。子供が産まれて一緒に舞台に立ってみたいとの思いから地元のマービーミュージカルに応募。3歳の娘とともに舞台に参加。その後9年間、親子で地元ミュージカルに出演した。一人っ子である娘を可愛がってくれる、地元ミュージカルのメンバーに、日々感謝している。

■ 古閑俊行 (KIT マネジメント 代表)



1970年 倉敷市出身。フリーアナウンサー、MC ナレーター、話し方講師。

平成12年、テレビ朝日アスク（アナウンススクール）に入学。声優、ナレーター、アナウンサー専科を修了。テレビ朝日アスクマネジメントに所属し、司会、パーソナリティ、ナレーション、リポーターを経験。2004年より現在まで、競泳日本選手権会場内アナウンサー（アテネオリンピック選考会から）として、現場の緊張感をお伝えしている。平成20年KIT（ケイアイティ）マネジメント設立。現在は、地元倉敷に帰郷し、司会、CM ナレーション、アナウンスを行っている。

■ 小原忠士 (小原整骨院 院長)



1964年 倉敷市出身。地元である倉敷市連島で開院以来25年にわたり地域の皆様の健康に貢献してきた小原整骨院の院長。柔道整復師としての技術力は当然、その穏やかな人柄で多くの患者に慕われ、スタッフからの信頼も厚い。6月には株式会社エミリンクとして法人設立。代表取締役となる。

■ 司会進行 俣野浩志 (株式会社パッション)

1970年 岡山市出身。一般社団法人ウェブ解析士協会認定 初級ウェブ解析士。経営修士 (MBA: 香川大学大学院地域マネジメント研究科)。大学でマーケティングを学んだ後11年間印刷・デザイン業界に勤務。2009年に岡山県産業振興財団主催のベンチャー・ビジネスプランコンテストにて奨励賞を受賞。2013年大学院にて「住民主体の体験交流型プログラムが地域社会に与える影響についての考察」というテーマで、NPOのまちづくりを研究した。

ミュージカルで表現される独特の世界観が大好きなんです。

司会：今回はプロのミュージカル俳優を目指している、現役女子高生の佐藤朱莉さんをお迎えしています。プロのミュージカル俳優を目指すキッカケや、ミュージカルに懸ける熱い気持ちをお伺いしたいと思います。また今回は「気まぐれ！メンズトーク」のパーソナリティである古閑さんにもご参加いただいています。まずは今回の座談会が実現した経緯をお聞かせください。

小原：「気まぐれ！メンズトーク」で一緒にパーソナリティをしている古閑さんの繋がりなんですよね。

古閑：ええ、私が東京時代の恩師から、CMや映画に出られそうな爽やかな女の子がいたら紹介して欲しいと言う依頼を受けていまして、「気まぐれ！メンズトーク」の生みの親でもある「プリティーウーマン」の池上さんに相談したら、朱莉ちゃんをご紹介頂いて…。実際にお会いし話を伺うと、演技、ダンス、歌など舞台俳優を目指して非常に努力している頑張りやだということもわかりました。笑顔も爽やかで素敵です！愛らしい人柄と気遣いもあって…将来伸びる子だなあという感じを受けました。

確か、朱莉ちゃんは「プリティーウーマン」にも出演したことがあるんだよね。

佐藤：はい、中学3年生の夏、エステ主催の神田沙也加さん主演のミュージカル「赤毛のアン」に出演させて頂いた体験をお話しました。



小原：今は学生なんだよね。ミュージカル専攻って、やはり舞台俳優を目指す生徒さんばかりなの？

佐藤：はい、Music コースの中のミュージカル専攻なんですけど、プロを目指す方が多いです。他の音楽実技や教育音楽、吹奏楽系ですと音大に行かれて音楽教師という方もいます。

古閑：音楽にどっぷり浸かっている友達ばかりなんだね。学校の授業も音楽に関する科目ばかり？

佐藤：普通科の中にある Music コースなので、普通科の授業もあるんです。月火水金は普通の科目、木曜日が1時間目は音楽理論、2時間目はお芝居の科目、3時間目は歌、4時間目はまた音楽理論、5時間目はソルフェージュ（楽譜の音符をとって歌う視唱）、6時間目は英語。7時間目は火曜と水曜がミュージカルのダンス授業や、バレエ（クラシック）とジャズダンス。実はバレエは苦手なんです。

小原：そうなの？ミュージカル専攻なので、踊りはバッチリだと思ってたけど…。小さい

頃から、ダンスとかの習い事はやってたの？

佐藤：はい、5歳の時から新体操を習っていたんですが、小学校5年生の時にマコトダンスカンパニーのダンススクールを見て、新体操をスパッとやめてダンスをやり始めました。

小原：何か惹かれるものがあった？

佐藤：もともと母が舞台好きだった影響もあり、3歳くらいから様々な舞台に連れて行かれて見ていたらしいです。その頃は舞台俳優になりたいとか、憧れなどはなかったんですが…母はなりたかったようで…（笑）。3歳から地元のマービーミュージカルに母娘一緒に入ったんです。4歳の頃に初舞台を踏んだんですけど、それから毎年舞台に出演させていただきました。

古閑：4歳からって、すごいね！お母さんと一緒に入られて…一緒に出演したりとかも？

佐藤：はい…。見たとおり、強烈なキャラなので、名物親子になってしまって…。母の方が目立っていました。

小原：ははは。今日はお母さんにも来て頂いているんだよね。お母さん何か一言！

佐藤 (母)：いえいえ、今日は控えておきます…今日は…（笑）。

小原：娘さんと同じ舞台に出演するって素敵なお母さんですね。ミュージカルに興味を持つのは自然なことだったんだね。小さい時からそういった環境で育てばね。普段は学校以外でも練習はしているの？家とか、養成所とか？



佐藤：はい、ディズニーのトップダンサーであった、マコトダンスカンパニーの今川誠先生のところでジャズダンスを習っています。他にも、歌唱・ボイストレーニング、クラシックバレエ、声楽・芝居など、どっぷり浸かってます（笑）。でも学校とレッスンだけで、家では練習はしないんです、鏡も小さいし。ビデオを見たりとかはします。レッスンが多いので帰る時間が遅いというのもあるんですが…。寝るのはだいたい1時、2時なんです。

でも、歌は階段（吹き抜け）で歌っています。ただ夜中にやるので…近所迷惑にならないように窓を閉めて…。私が歌い出すと、お父さんが積極的に窓を開けてくれるんです。

小原：お父さんも朱莉ちゃんの夢を全面的にサポートしてくれているんだね。

佐藤：レッスンがある平日は、寝るのが遅くなるので、早起きができないんです…元々ちょっぴり苦手ですけど…。いつも出発ギリギリなんです。一分一秒を争って着替えて、顔を洗って…。真備から山陽女子まで電車で一時間かかるので結構きつくて、朝は時間との戦いで

す。そんな状況を見かねて、お父さんが毎朝起こしてくれるんです。お母さんは朝弱いんで、看護師なので夜勤があったりして…。お弁当もお父さんが作ってくれるんです。

小原：お父さん、頑張ってるね。やっぱり朱莉ちゃんの一番のファンなんじゃないの？

佐藤：はい！たぶん、私の大ファンだと思います！（笑）一人っ子ということもあると思うんですけど…。朝も、駅で見送ってくれるのですが、駅の陸橋から振り返ってくれるのが嬉しいみたいで、いつまでも手を振ってくれています！

古閑：それはわかるなあ～。もちろん、娘の夢を応援したいって気持ちが一番なんだけど、朱莉ちゃんの笑顔が最高のご褒美なんだよ。お父さんにとっては。お父さん、それだけで今日一日しんどくても頑張れる！みたいな…ね。



小原：そうそう！誰しも真剣に取り組んでいる姿を見ると応援したくなるよね。特にそれが娘であったらなおさらですよ。

ところで、朱莉ちゃんをそこまで夢中にさせているミュージカルの魅力って、どんなところにあるの？

佐藤：ミュージカルで表現される独特の世界観が大好きなんです。ミュージカルには、「歌」と「踊り」と「お芝居」があるんですが、歌は一番心に残りやすいと思うんですけど…印象的なメロディーラインがいつまでも頭の中でぐるぐる回ってるってことってありますよね。それに感情をより豊かに表現する踊りと、ストーリーを伝えるお芝居。その3つで表現されるステージの迫力ってすごいんです。本当に圧倒されます。ライブだからこそ味わえる世界なんですけど。

小原：朱莉ちゃんの年頃だと、ジャニーズとかヒップホップとか、そういうアイドルやアーティスト、ようはテレビで観ることができる芸能人に憧れることが多いと思うんだけど…ではなくて、ミュージカルなんだよね。それも劇団四季が好きなんだよね。

佐藤：特にというか、劇団四季が大好きなんです。友達にはジャニーズなどが好きな子がいますが、私は劇団四季にしか興味がないんです。もちろんテレビドラマなども好きなので観ますし、話もしますが、特定の芸能人のファンになったことはないんです。ミュージカル以外でライブまで足を運んだのは、ペントニックスが初めてで…。アメリカで結成された5人組のグループなんですけど、楽器の音も全て声で表現するアカペラのグループなんです。ペントニックスのライブはすごくて…彼らはオーディション番組から勝ち上がって結成された実力派なんです。

小原：朱莉ちゃんは、実力派が好きなんだね。

佐藤：そうです。劇団四季の魅力は、それこそいろいろあるんですが、やはりレベルが高いんです。お芝居や歌が魅力的です。特にダンスが揃っていることが素晴らしいんです。セットとかもすごいし、音楽とかも…良い作品ばかり公演しています。

それに私が四季に憧れる理由がもう一つあるんです。実は四季はスターを作らない方針で運営されていて、定期的にかかれるオーディションに受からなければ研究生であっても出演できないんです。私は、まずはこの研究生を目指しているんですが、研究生の間中は、給料はなくてバイトも禁止です。ただレッスンは無料で受けられます。その期間が1年間あって、その間にオーディションにチャレンジしていくんです…でもあまりにも採用されないとかビなんです…研究生でもですよ！なので常に努力が必要で自分を磨き続けなければならない。また、そこに入り込む姿勢…覚悟かな…それがが必要です。大変ですけど、そういう部分に惹かれるんです。たぶん華やかなスターとかよりも、ストイックな生き方に憧れているんだと思います。こういった劇団四季の考え方も私の好みに合うんです。



小原：なるほど。ひたむきに常に努力し続けること。これって実はなかなか出来ないですよね。まず自分の目標が定まっていなくて多い。それに、良かれと思ってアドバイスをくれる周りの人の言葉が、本人の意思をブレさせてしまう。ブレてしまうのは、自分の信じたこと、自分の判断を（自分が）信じることができないから。特に大人が子どもの夢を諦めさせてしまうことが多いんですよ。

佐藤：そうなんです。両親は大学も受けてみたら？と言うのですが、私は受ける気はないって言っているんです。大学の4年間もったいない…一生の中でその4歳分の期間は重要な気がするんです。一番成長できる期間なので…劇団四季もその年齢の人材を求めていると思いますし。もし劇団四季に入団出来なかったら、ニューヨークのアルビンエイリーというダンス教室に1年間留学して、1年後に再度オーディションを目指すつもりなんです。どっちにしてもそこを目指しています。とにかく今年は劇団四季だけでいきます。その後は視野を広げてほしいとは思っていますけど…。

佐藤（母）：親としてはねえ…本人が信念を持っているんで、見守るしかありません。学校からも大学受けてみたらと言われるが、本人に全くその意思がないんで…。自分が決めたことなので後悔はしないと思いますが。なんせ頑固な娘なので…。私が内緒で送ったんですが、モー娘。ホリプロも書類審査は通っているんです。それでも行かないと言っていて…面接に行こうとしないんですよ。

古閑：お母さん、親として居ても立ってもおられず…（笑）。朱莉ちゃんがそこまで劇団四季へ行くんだ！という目標を持つようになったキッカケってあるの？

佐藤：「ウィキッド」を観てからです。オズの魔法使いのエピソードの一つとして作られた作品なんですが、中学1年の時にこれを見て、劇団四季に行きたいと…周りに言うようになりました。

小原：夢を語るようになって何か変わった？

端から見れば雑用のように見える仕事かもしれませんが、出演者がベストの状態に立てるようには、どのようなことをすれば良いか？…気遣いなども含めて…。そういったことを考えることは、同じ出演者として、気付かされること、学ぶべきことがとても多かったです。

佐藤：はい、中学3年の時まで、オーディションなど受けたことはなかったんですが、プロの俳優を目指す、劇団四季に入るんだ！と決めてから、オーディションを受けるようになりました。初めてのオーディションで、神田沙也加さん主演のミュージカル「赤毛のアン」のアンのクラスメート役に選ばれて、全国公演に出演させて頂きました。

まず広島で中四国のオーディション、書類選考があり（全国で1,275人が応募）、そこで合格して、数日後に全国オーディションに行きました。全国では、各地区の勝ち残った人が、全国公演に出演できる「レギュラー」になれるオーディションがあり…あまり自信がなかったんで「受けてみる？」というノリで受けたら受かったんです。全国から10人しか選ばれないんです。私以外は大学生と大人で、私だけ中学生でした。



オーディションは、まずダンスと歌で15人に絞られ、その後に芝居という形式で進むんです。後日返事が来て全国レギュラーでということになって…。受かるとは思っていなかったんですが、帰る直前に審査員長に「ちょっと来て」と言われて…「岡山だけで大丈夫？」と聞かれて…その時ひょっとしたら…というのはあったんですけど…、本当に受かってビックリでした。

全国公演は、1舞台が2時間の公演を8都市で10公演しました。7月から練習に行って、夏休みに入って東京に1ヶ月ホテル住まいを経験したんです。8月中旬まではお稽古だったんで。中学3年の時です。食事はもっぱらコンビニなどで済ませました。練習が昼から晩までと長くて、自炊する気力もなく…。最初の7月いっぱいには振り付けを習って、8月からはメインの神田沙也加さんと元モーニング娘。の高橋愛さんも来て一緒に練習しました。それから8月中旬から9月にかけて全国を公演に回りました。11日間くらいで全国を回りました。

小原：ほう！それは良い経験をされましたね。どんなところが一番勉強になった？

佐藤：初めての経験だったので、むちゃくちゃハードでしたし、もう全てが勉強でした！プロ根性というか、これがプロの世界というのに触れることができましたし…。公演の移動も新幹線や車で移動するんですが、メンバーも半分に分けられて、グループ別に移動したり。メイクも車の中で落として。またメンバーはスタッフでもあるので、ケータリング（食事）

株式会社エミリンク（小原整骨院）

Copyright (c) 2014 Emilink.Co.,Ltd. All Rights Reserved.

を準備したり…公演以外にも、たくさん仕事がありました。端から見れば雑用のように見える仕事かもしれませんが、出演者がベストの状態で舞台に立てるようには、どのようなことをすれば良いか？…気遣いなども含めて…。そういったことを考えることは、同じ出演者として、気付かされること、学ぶべきことがとても多かったです。

小原：それは非常に大切なことですね。相手を気遣うこと、思いやりは人間関係の基本だと思いますよ。相手の立場に立って考えて、自分がして貰いたいことを相手にもしてあげなさい…とよく言われますが、相手の立場を経験できないと、なかなか相手が思っていることに気付くことができません。朱莉ちゃんが経験したこと、全国公演のハードな仕事は、出演者みんなで公演を成功に導くための人間関係づくりなど、将来とても役に立つと思いますよ。

古閑：神田沙也加さんは、アナ雪で改めて注目されたけど、やはりすごかった？ブレイクした後に、親の七光りで人気が出たのではなく、あえて舞台を選んで、自分の実力で頑張ってきた努力家だった！って、様々なメディアが取り上げていたけど…。

佐藤：はい！神田沙也加さんにはオーラがありました！ツアーを回った次の次の年にアナ雪でブレイクしましたが、親の七光りがどうのって、全く関係ないです。本物のプロでした！

小原：歌やダンス、演劇だけでなく、心遣いなどマインドの部分も積極的に吸収されているんだね。学校でも色々な役割を担っているんじゃないの？



佐藤：山陽女子のMusicコースでは、毎年、12月末頃に定期演奏会を開催するんです。1年から3年までの生徒全員です。今、その会をまとめるコンミス（まとめ役）をしています。1学年20～30人いるんですが、これだけの人数をまとめるのが結構大変で…場所は岡山市民会館を借りるんですが、全て仕切っていないとダメなんです。それこそ照明から全て！

演目は、第1部はオズの魔法使い。8月から12月にかけて1年から3年で取

り組んでいる集大成なんです。

ダンスのレッスンで通っている、マコトダンスカンパニーで選抜メンバー（エムズ）のリーダーを3年前から任せられてやっているの、まとめ役は慣れてきてはいるんですが、学校となると違っていることも多くて…。学校だと、プロなど上を目指している人もいますが…。ミュージックコースにはダンス以外にもピアノの専門や他の職業を目指す方など色々いるので、それらの人に同じ目的に向かって協力して頂くようにするのは大変なんです。気も遣いますし…。マコトカンパニーでは歳が一番上なのでまだやりやすいんです。学校では同級生もいるので…難しい（笑）。

小原：それは大人でも苦勞してることでしょ。整骨院の経営でも苦勞するので、よく分かる。人それぞれ上質世界とって、望んでいることが違うからね…。私も今までは、他人は変えられない、変えられるのは自分と未来だけとて思っていましたけど、今ではこうなっていけばそ

の人にとって更に良いと感じたことは、どうにかして伝えたい!! と思い、伝える術の勉強をしています。

朱莉ちゃんの目指すところは、一人では成し得ないものですよね。自己完結できることってあまりないんですけれど、一つの演劇は様々な人が関わってくれて作品となるんですよね、その中にはオーディエンスも含まれると思いますが…。まずは、それら全ての人が関わってくれているからこそ、自分が生かされている“場”があるんだと気付くこと、これが大切ですよ。だからこそ、一所懸命に取り組むことが必要なんだと。

佐藤：はい！私の夢のはじまり、根っこはダンスなんです。演劇しかない舞台だと物足りない感があって。結局、歌も踊りも、演劇も3つとも好きだと気付きました。それができるのがミュージカルなんです。絶対、趣味では終わらせません！

小原：ですね。是非、劇団四季で活躍する姿を見せてくださいね！今日は、フレッシュな気持ちにさせて頂きました。朱莉ちゃんには、この対談だけではなく、FM 暮らしき「気まぐれ！メンズトーク」への出演もお願いしていますから、また番組の方でも色々とお聞かせくださいね。

古閑：ですね！特に恥ずかしい失敗談とかを聞きたいですね！

佐藤：それは…なんだか、FM の日に予定が入ってきそうな気が… (笑)。



古閑：いやいや、お母さん、連れてきてくださいよ！もちろん、お母さんも一緒に！

佐藤 (母)：私も予定を入れたくなっちゃっうかもしれません…恥ずかしがり屋なもので… (笑)。

小原：まあまあ。冗談はそれくらいで…。今日は本当にありがとうございました！朱莉ちゃん頑張っってね！

佐藤：はい！頑張ります！今日は楽しかったです。ありがとうございました！

.....

■ MAKOTO DANCE COMPANY

〒701-0151 岡山市北区平野920 (わたなべ生鮮館 2F)

TEL.090-6840-5440

E-mail : mdc@active-dream.jp

■ 学校法人 山陽学園 山陽女子中学校・高等学校

〒703-8275 岡山市中区門田屋敷2-2-16 TEL : 086-272-1181 FAX : 086-272-3026

■ 小原整骨院（本院）

〒712-8014 倉敷市連島中央 2-3-22 TEL&FAX : 086-444-9595

受付時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～19:15	○	○	○	×	○	×	×

こはら鍼灸整骨院（倉敷分院）

〒710-0003 倉敷市平田 615-1 TEL : 086-486-3363